

## 地域教育プラットフォーム

### 1 地域教育プラットフォームとは

地域教育プラットフォームとは、以下の(1)～(3)などの機能を持った地域における総合的な教育支援体制整備を目指した中間支援の仕組みのこと

- (1) 地域に蓄積された社会資源の有効活用を図るための情報基盤整備を行う。
- (2) 住民のネットワークから得た多様な情報や人材を結集して、地域課題の解決策を提案する。
- (3) 地域で展開される様々なプロジェクトをつなぐ役割を担うことで、複合的事業展開を可能にする。

(注): 学校のスリム化を進めるとともに、家庭・地域の教育力を向上させ、学校・家庭・地域の教育力をバランスよく機能させるために、三者の教育力の関係をコーディネートし再構築する仕組みと捉えることもできる。そこでは、学校教育や社会教育といった従来の行政の枠組みでは対応できなかった谷間の課題を、地域における関係機関や住民のネットワークを活用することによって解決を図るという方向が見出される。

### 2 地域教育プラットフォームの主な役割

地域教育プラットフォームに期待される主な役割としては、次の(1)(2)があげられる。

- (1) 地域社会のみならず、企業や大学・研究機関などをはじめとした地域を超えた外部の社会資源の持つ教育力を、地域内にある学校内外を通じた教育活動に導入すること。
- (2) 地域内の学校、家庭、地域の協働を進めていくためのコーディネート活動を展開していくこと。具体的には、情報の収集・把握・発信・相互交流、社会資源のマネジメント、各種教育相談・問題を抱える子ども達へのサポート活動などの役割を担うこと。

### 3 地域教育プラットフォームが行う具体的な取り組み

地域教育プラットフォームが行う具体的は取り組みとしては、以下の(1)～(5)などが考えられる。

- (1) 地域や地域を超えた専門的教育力の学校教育への導入
- (2) 生徒の個々の教育ニーズに対応した発展的な学習の機会の提供
- (3) 地域スポーツクラブや子供の居場所づくりなど、学校外で取り組んだ方がより効果的な各種体験活動の機会の提供
- (4) 学校、専門機関等との連携による不登校、引きこもりなどの生徒たちへの心のサポート
- (5) 就学前教育への対応、家庭教育を支援する人材の育成

#### 4 東京都における学校・家庭・地域の教育力を再構築する仕組みについて

～地域教育サポート・ネット事業（モデル地区）の取り組みを通して～

##### （１）モデル地区における取り組みの事例

- ・総合的な学習の時間への支援

地域人材の発掘・派遣・紹介、企業やNPOなどの外部の社会資源を活用した教育プログラムの提供

- ・職場体験先の開拓

生徒のニーズに基づいた多様な職場体験先の開拓、体験先との調整

- ・学校サポーター、学校支援ボランティアの養成

図書館ボランティア、学習支援者、クラブ活動の指導者などの養成・研修

- ・子ども達を対象とした様々な体験活動の企画

地域の高齢者を招いた伝承遊びの企画など

##### （２）モデル地区での取り組みの成果

- ・地域社会のもつ教育力や地域住民が有する教育資源を効果的に学校教育に導入していく上で、有効な仕組みであることが実証された。

- ・なかでも特に、コーディネーターが重要な役割を果たすことがわかった。

- ・「開かれた学校づくり」を地域の側から誘発するという結果にもつながった。

##### （３）モデル地区での取り組みを通しての課題

地域の教育力を総体として高めるしくみとして十分に機能しきれていない。具体的には、次の６点が課題としてあげられる。

- ・地域を超えた企業・大学・NPO等の教育力の導入という点にまで広がっていない。

- ・個々の学校への支援が中心となってしまう。

- ・学校の教育課程との組み合わせが十分にできていないケースがある。

- ・学校外教育活動であるという視点が乏しい。

- ・問題行動や心の問題を抱える子ども達へのアプローチが不十分である。

- ・コーディネーターの養成、スキルアップの方法が明確になっていない。

##### （４）モデル地区以外に東京都内で展開される取り組み事例

- ・子どもの居場所づくりを行っている地域住民たちによる学校教育支援活動の展開（渋谷区、平成１４年度～）

- ・青年会議所による「KOTO寺子屋」（江東区、平成１４年度～）

- ・学校支援NPOの設立（三鷹市、平成１５年度～）

- ・地域教育コーディネーターを中学校に配置（新宿区、平成１６年度～）

- ・学校教育のコーディネート組織が発足し、学校教育支援活動を展開（世田谷区、平成１６年度～）